

④ ユニットの据付けのつづき

- ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(ユニット両端の高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締めてユニットを固定してください。



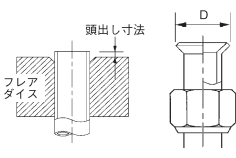
ユニット据付け時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが締付できなくなったり、ファン音が発生することがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 化粧パネルを据付けるとユニットの高さの微調整ができます。詳細は化粧パネルの据付説明書をご覧ください。
- 化粧パネルと天井面、および化粧パネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- 化粧パネルをしぼくの間取りが取れない場合、またはユニットを据付け後に天井面を貼る場合は、据付用型紙(梱包材天井ダンボール)を使用して、ユニット内へ埃を入れないための保護シートとしてください。

⑤ 冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料を確認してください。再利用する場合、フレアナットは汎用型ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R410A用のフレア加工をしてください。

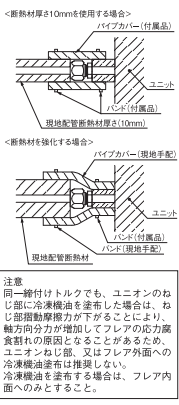


配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 挿出し寸法 mm リジッド (クラッチ式) R410A用 従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット 挿出しトルク N・m
6.35	0.8	0 ~ 0.5	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8	0.7 ~ 1.3	12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8		16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.98	1		19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2		23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン脱炭素金種目無銅管 (C1220T, JIS H 3300) をご使用ください。また管内の内外面は実質であり、使用上有毒な硫黄、酸化銅、ゴミ、初粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷媒酸化劣化などの原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
- R410A以外 (R22など) の冷媒を使用すると、冷媒油劣化などの原因になります。また空気が混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とももうけする直前までシールしてください。
- 冷媒回路に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R410A 専用ツールを使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
※ ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで 2 掛けて外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※ 配管の曲げは 4D 以上の大半径で行い、曲げをおしを行わないでください。
※ フレア配管は、以下のように行ってください。
※ フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで 3 ~ 4 回転ねじ込み、2 スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締めてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※ 断熱は断熱材なしと結露・水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃ 以上のものを使用してください。
※ 高温差雰囲気を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 断熱は室内ユニットに完了します。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。



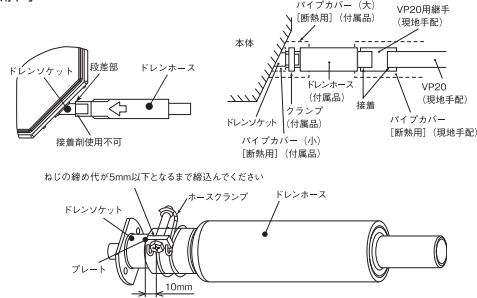
⑥ ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

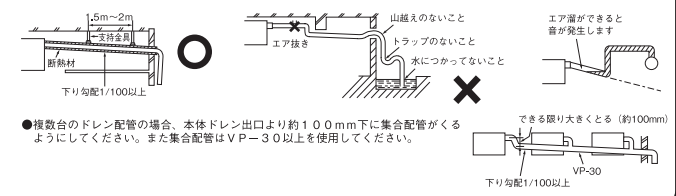
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガスなど有毒ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確認してください。
- 室内に有毒ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や爆発欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

- 付属のドレンホース (軟質塩ビ種) はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から 10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 以下となるまで締込んでください。
- 接着剤使用不可



- ドレンホース (硬質塩ビ種) に、VP-20 用継手 (現地手配) を接着・接続し、この継手に、VP-20 (現地手配) を接着・接続してください。
※ ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管 VP-20 を使用してください。
- 本体直近で立上げ部分は VP-20、横引き部分以降は VP-25 以上を使用してください。
- 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
- ドレンホースは曲げたり、過度な段差で使用しないでください。曲げたり、過度な段差で使用すると水漏れの原因になることがあります。

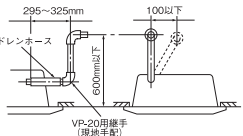


⑥ ドレン配管のつづき

- ドレン配管の断熱施工を行ってください。
- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー (小) をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー (大) にてパイプカバー (小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

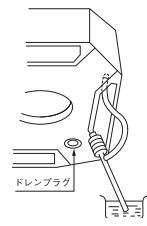
ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より 600mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時に右側のドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後、排水が確実に行われていることを、接続部およびユニットのドレン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
- 断熱の場合には天井を強固前に実施してください。
- 1. 本体吹出部より給水ポンプなどを使用して、ドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約 1000cc 注入してください。
- 2. ドレン排水が確実にされること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部 (透明) より確認できます。
- 3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

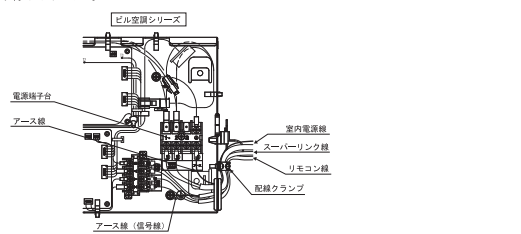


ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン (ワイヤード) 操作により可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上の SW7-1 を ON にし、かつ、基板上的コネクタ CNB を抜いた後、電源 ON (端子台①、②へ AC 200V) すると、ドレンポンプの外運転運転します。
ドレン排水確認後は、必ず SW7-1 を元の状態 (OFF) に戻し、かつ、基板上的コネクタ CNB を差し込んでください。

⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電線と電線は同一経路を走らさないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D 種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
- 1. 制御箱の蓋 (ねじ 1 本) を取外してください。
- 2. 各配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
- 3. 各配線をクランプで固定してください。
- 4. 制御箱の蓋を通りに取付けてください。



⑧ パネルの取付

- パネルは、電気配線工事完了後に、ユニット本体に取付けてください。
- パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

⑨ ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電線は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	